

# 選択的評価事項に係る評価

## 自己評価書

平成30年6月  
八戸工業高等専門学校

- ・ 自己点検・評価結果欄の各項目のチェック欄で「・・・していない」等にチェック（■）した場合は、自己点検・評価の根拠資料・説明等欄に、その理由等を記述すること。
- ・ （該当する選択肢にチェック■する。）と記載のある項目は、該当する箇所のみチェックを入れること。選択肢全てにチェックを入れる必要はない。
- ・ 自己点検・評価根拠資料・説明等欄の記号は次のとおり。
  - ◇：明示している根拠資料については、該当資料名、資料番号、自己評価書「根拠資料編」での掲載ページを記入すること。資料は、該当箇所がわかるように（ページや行の明示、下線や囲み線を引くなど）して、まとめて自己評価書「根拠資料編」として作成すること。資料を、ウェブサイト等で公表している場合には、ウェブサイト公表資料と付した上で、該当資料名、資料番号を記入し、そのリンク先を欄中に貼付すること。この場合は、自己評価書「根拠資料編」にリンクを貼ったウェブサイト公表資料の一覧を添付すること。
  - ◆：資料等を基に自己点検・評価の項目に係る状況を記述すること。（取組や活動の内容等の客観的事実について具体的に記述し、その状況についての分析結果をその結果を導いた理由とともに記述。）記述は、できるだけ簡潔にし、分量は、200字以下を目安とすること。なお、「……場合は、」とあるものについては、該当する場合のみ記述すること。
- ・ 関係法令の略は次のとおり。

(法)学校教育法、(施)学校教育法施行規則、(設)高等専門学校設置基準

## I 高等専門学校の現況及び特徴

(1) 現況	
1. 高等専門学校名	八戸工業高等専門学校
2. 所在地	青森県八戸市大字田面木字上野平16番地1
3. 学科等の構成	準学士課程：産業システム工学科 専攻科課程：産業システム工学専攻
4. 認証評価以外の第三者評価等の状況	特例適用専攻科（専攻名：） JABEE認定プログラム（専攻名：） その他（ ）
5. 学生数及び教員数 （評価実施年度の5月1日現在）	学生数：893人 教員数：専任教員64人 助手：0人
(2) 特徴	
<p>八戸工業高等専門学校は昭和38年度に設置され、機械工学科、電気工学科、工業化学科の3学科で発足し、昭和43年度に土木工学科を増設して4学科体制となった。平成3年度に工業化学科が物質工学科に、平成7年度に土木工学科が建設環境工学科に、平成17年度に電気工学科が電気情報工学科にそれぞれ改組された。平成14年度には専攻科が設置された。平成25年度の創立50周年を機に、地域のニーズに即した学科編成とすべく、平成27年度から1学科4コース制と1専攻4コース制を導入し、現在に至っている。</p> <p>昭和56年度には、地域課題の教育研究施設として廃棄物エネルギー利用教育研究センターが竣工され、総合技術教育研究センターを経て平成15年度から地域テクノセンターと改称した。また平成5年に設立された産業技術振興会は、地元企業等の会員企業が178社に達しており本校への支援がなされている。</p> <p>本校では、創立当初から「誠実・進取・協調」を校訓としており、専門知識だけでなく豊かな人間性の涵養も重要な教育目的として掲げている。このため、準学士課程の1年生で専門コースの枠を取り払った混合学級の編成を行っているほか、課外活動や寮生活等も重視している。課外活動では、硬式野球部が平成29年度選抜高等学校野球大会の21世紀枠青森県推薦校に選出されている。教育寮としての学寮は全人格形成に大きな教育効果を生み出しており、学習時間の設定や指導寮生、室長による低学年生への指導など、社会人としてあるべき人格を陶冶する徳育の場としても機能している。平成30年度にキャリア教育の推進と学生の支援を目的とするキャリア教育・支援センターを設置し、進路決定に向けた情報提供や学習支援を行っている。また学習支援としては、上級生が成績不振な下級生に個別に学習指導を行う学習支援メンター制度を平成22年度から実施している。本校卒業後の進路の状況は、過去5年の平均で準学士課程卒業生の約40%が本校の専攻科または大学3年次に進学し、専攻科進学者の約半数が大学院へ進学している。就職希望者に対する求人倍率は20～30倍であり、就職率は100%を堅持している。</p> <p>地球温暖化や少子化など、人類がこれまで体験したことのない課題に直面する中、社会から求められる技術者象も課題解決型から課題発見・解決型へと変化している。このような社会のニーズに応えるため、「自ら課題を発見しその解決に向けて自ら学ぶ姿勢」を持つ実践的・創造的技術者の育成を教育目的の一つとして掲げている。校長の強力なリーダーシップのもと、平成27年度の学科改組と同時に全国高専に先駆けて4学期制を導入するとともに、自ら課題を見出し、正解の無い課題に対して解決策を探究する自主探究活動を導入した。さらに国際交流プログラムと連携した海外自主探究も推奨している。全員がその成果をポスター発表することにより、表現力やコミュニケーション力も養うことができる。</p> <p>自主探究活動では、学生同士が進捗状況の報告と意見交換を行う学生相互報告会の教育効果が大きく、意見や質問をもとに学生が自ら考え、調べ、課題設定や方向性の修正などを行う過程を通じて、探究内容が自分のものとして定着している。最終発表会では、1年次の学生でも教員や来賓からの質問に自分の言葉で回答し議論できているとの感想が寄せられている。</p> <p>産業のグローバル化が進む中、本校では「異文化を理解する姿勢を持ち、必要な英語基礎力を備えた実践的・創造的技術者」の育成を準学士課程の目的に掲げ、海外の教育機関とのネットワークを構築し、14年前から学生の海外派遣・受入を行っている。平成28年度からはグローバル高専拠点校として、海外の教育機関との連携を強化し、学生の海外派遣と受入れの拡大、教員のグローバル教育力の向上（英語力強化を含む）などの事業に取り組んでいる。平</p>	

成 29 年度には準学士課程と専攻科課程合わせて延べ 72 名の学生を海外へ派遣するなど、「15 歳からの国際交流活動」を推進している。平成 30 年度にはタイ政府奨学金留学生受入校に採択され、31 年度から毎年 2 名ずつの留学生が準学士課程 1 年生に（平成 31 年度は 2 年生にも 2 名）入学する予定である。学寮 1 棟を外国人留学生と日本人学生が共同生活を行う国際混住寮へ改修し、日本人学生が日本に居ながら多文化コミュニケーションを経験できるシステムを構築中である。

本校は、平成 26 年度に地（知）の拠点整備事業（COC）「青森の資源や人財のコンピテンシ育成拠点プログラム」が工業高専としては唯一、単独校で採択された。また同 27 年度からは、弘前大学を中心とする地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）にも参画している。公開講座や出前授業、本校独自の「まちなか文化祭」などを通じて地域社会との連携を進め、地域企業見学や「あおり県企業内容説明会」を開催するなど、学生の地域への定着を図っている。さらに平成 29 年度 KOSEN4.0 イニシアティブ事業に採択され、自主探究の成果の知財化や海外自主探究推進などの事業を展開している。

## II 目的

### 1. 目的

本校は、教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

準学士課程は、教育基本法及び学校教育法に基づき、教養と工学専門分野の知識・技術を身につけるとともに、自ら課題を発見しその解決に向けて自ら学ぶ姿勢を持ち、産業界のニーズに応えられる実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。

(八戸工業高等専門学校学則第1条の1～2)

### 2. 学科及びコースごとの目的

学科及びコースごとの教育目的を次のとおり定める。

#### 一 産業システム工学科

得意とする専門分野に関する知識と技術を備えつつ他の専門分野の基礎にも理解があり、自ら課題を発見・探究する姿勢と異文化を理解する姿勢を持ち、必要な英語基礎力を備えた実践的・創造的技術者を育成する。

#### 二 機械システムデザインコース

あらゆるものづくりの基盤となっている機械技術を通じて社会を活力あるものとするため、幅広い視野と豊かな人間性をそなえ、機械・エネルギーシステム並びに知能機械システムの基礎とその応用分野に関する知識と技術を身につけ、創造力にあふれた、ものづくりに強い実践的技術者を育成する。

#### 三 電気情報工学コース

あらゆる産業や生活の基盤である電気・電子・情報系の技術を通じて、社会のニーズに応えるため、幅広い視野と豊かな人間性をそなえ、電気電子システム並びに知能情報システムの基礎とその応用分野に関する知識と技術を身につけ、創造力にあふれた、ものづくりに強い実践的技術者を育成する。

#### 四 マテリアル・バイオ工学コース

エネルギー・資源・環境問題を考え、経済性や安全性を十分考慮した循環型社会を担うため、幅広い視野と豊かな人間性をそなえ、マテリアル工学並びにバイオ工学の基礎とその応用分野に関する知識と技術を身につけ、創造力にあふれた、ものづくりに強い実践的技術者を育成する。

#### 五 環境都市・建築デザインコース

環境の保全と再生及び安全・安心で持続的発展が可能な社会を実現するため、幅広い視野と豊かな人間性をそなえ、環境都市デザイン並びに建築デザインの基礎とその応用分野に関する知識と技術を身につけ、創造力にあふれた、ものづくりに強い実践的技術者を育成する。

(八戸工業高等専門学校学則第7条の3)

### 3. 専攻科の目的

専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工学に関する高度な専門知識と技術を教授研究し、もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。

(八戸工業高等専門学校学則第41条)

### 4. 専攻及びコースごとの教育目的

専攻及びコースごとの教育目的を次のとおり定める。

#### 一 産業システム工学専攻

社会の変化や多様なニーズに対応できるよう、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工学における高度な専門知識と技術を教授研究し、創造性と研究開発能力を兼ね備えることで、ものづくり、システムづくりを先導でき、かつ国際的に通じる適切な英語基礎力をもつ実践的専門的技術者を育成する。

#### 二 機械システムデザインコース

あらゆるものづくりの基盤となっている機械技術を通じて社会を活力あるものとするため、幅広い視野と豊かな人間性をそなえ、機械・エネルギーシステム並びに知能機械システムとその応用分野に関する高度な知識と技術を

身につけ、創造性と研究開発能力をもち、ものづくりを先導できる実践的専門技術者を育成する。

### 三 電気情報システム工学コース

あらゆる産業や生活の基盤である電気・電子・情報系の技術を通じて、社会のニーズに応えるため、幅広い視野と豊かな人間性をそなえ、電気電子システム並びに知能情報システムとその応用分野に関する高度な知識と技術を身につけ、創造性と研究開発能力をもち、ものづくりを先導できる実践的専門技術者を育成する。

### 四 マテリアル・バイオ工学コース

エネルギー・資源・環境問題を考え、経済性や安全性を十分考慮した循環型社会を担うため、幅広い視野と豊かな人間性をそなえ、マテリアル工学並びにバイオ工学とその応用分野に関する高度な知識と技術を身につけ、創造性と研究開発能力をもち、ものづくりを先導できる実践的専門技術者を育成する。

### 五 環境都市・建築デザインコース

環境の保全と再生及び安全・安心で持続的発展が可能な社会を実現するため、幅広い視野と豊かな人間性をそなえ、環境都市デザイン並びに建築デザインとその応用分野に関する高度な知識と技術を身につけ、創造性と研究開発能力をもち、ものづくりを先導できる実践的専門技術者を育成する。

(八戸工業高等専門学校学則第 43 条の 2)

Ⅲ 選択的評価事項の自己評価等

選択的評価事項A 研究活動の状況

<p><b>評価の視点</b></p> <p>A-1 高等専門学校の研究活動の目的等に照らして、必要な研究体制及び支援体制が整備され、機能しており、研究活動の目的に沿った成果が得られていること。</p>	
<p>観点A-1-① 研究活動に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(設)第2条第2項</p>
<p>【留意点】</p> <p>○ なし。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 研究活動に関する目的、基本方針、目標等を適切に定めているか。</p> <p>■定めている</p> <p>□定めていない</p>	<p>◇定めていることがわかる資料</p> <p>・資料 A-1-①-(1)-1(p1)</p> <p>研究活動の目的・方針・目標がわかる資料</p>
<p>観点A-1-② 研究活動の目的等に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 観点A-1-①の研究活動に関する目的、基本方針、目標等を達成するための、実施体制、設備等を含む研究体制及び支援体制の整備状況・活動状況について分析すること。</p> <p>○ 実施体制の整備については、研究に携わる教員等の配置状況、センター等設置状況を示すこと。</p> <p>○ 研究活動状況については、共同研究等、他研究機関や地域社会との連携体制及びその機能状況等の具体例を示すこと。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(設)第2条</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための実施体制を整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>◇目的等ごとに、実施体制が整備されていることがわかる資料</p> <p>・資料 A-1-②-(1)-1(p2)</p> <p>研究活動の実施体制がわかる資料</p>
<p>(2) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための設備等を含む研究体制を整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>◇目的等ごとに、研究体制が整備されていることがわかる資料</p> <p>※ 研究体制は実施体制と支援体制とに分類されている。本校の研究設備については、主な試験・分析機器として公表し、学内外の利用に供されている。</p> <p>・資料 A-1-②-(2)-1(p3)</p> <p>研究体制が整備されていることがわかる資料-1</p> <p>・資料 A-1-②-(2)-2(p4)</p> <p>研究体制が整備されていることがわかる資料-2</p>

<p>(3) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための支援体制を整備しているか。</p> <p>■整備している □整備していない</p>	<p>◇目的等ごとに、支援体制が整備されていることがわかる資料</p> <p>※ (支援体制は目的ごとの区分を行っていない)</p> <p>研究支援体制は地域テクノセンター、総合情報センター、地域文化センター、ものづくりセンターの4センターから構成されており(資料 A-1-②-(3)-1(p5))、各センターの担当業務は資料 A-1-②-(3)-2(p6)に示されている。成果の知財化に対しては予算補助の制度を設け積極的に推進している(資料 A-1-②-(3)-3(p10))。</p> <p>・資料 A-1-②-(3)-1(p5) 研究支援体制が整備されていることがわかる資料-1</p> <p>・資料 A-1-②-(3)-2(p6) 研究支援体制が整備されていることがわかる資料-2</p> <p>URL: <a href="http://www.hachinohe-ct.ac.jp/schoolguide/upload/docs/college-bulletin2017.pdf">http://www.hachinohe-ct.ac.jp/schoolguide/upload/docs/college-bulletin2017.pdf</a> 八戸工業高等専門学校学校要覧-p.36, 38-40 (総合情報センター、地域テクノセンター、地域文化研究センター、ものづくりセンター)</p> <p>・資料 A-1-②-(3)-3(p10) 研究支援体制が整備されていることがわかる資料-3</p>
<p>(4) (1)～(3)の体制の下、研究活動が十分に行われているか。</p> <p>■行われている □行われていない</p>	<p>◇研究活動の実施状況がわかる資料</p> <p>※ 実施状況がわかる資料として、大学改革推進等補助金(資料 A-1-②-(4)-1(p12))、産学官金連携協定(資料 A-1-②-(4)-2(p13))、科研費採択状況、助成金採択課題、受託事業・受託研究・共同研究受入れ状況、補助金・助成金(資料 A-1-②-(4)-3(p14))、を示す。</p> <p>・資料 A-1-②-(4)-1(p12) 研究活動の実施状況がわかる資料-1</p> <p>・資料 A-1-②-(4)-2(p13) 研究活動の実施状況がわかる資料-2</p> <p>・資料 A-1-②-(4)-3(p14) 研究活動の実施状況がわかる資料-3</p> <p>URL: <a href="http://www.hachinohe-ct.ac.jp/schoolguide/upload/docs/college-bulletin2017.pdf">http://www.hachinohe-ct.ac.jp/schoolguide/upload/docs/college-bulletin2017.pdf</a> 八戸工業高等専門学校学校要覧-p.45 (教員等の研究活動)</p>
<p>観点A-1-③ 研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 研究活動の目的等に照らして、どの程度活動の成果があげられているか、目的の達成度について実績等を示すデータ等を提示すること。</p> <p>○ 目的が複数ある場合は、それぞれの目的ごとに、目的に照らした研究の成果及び目的の達成度について資料を提示すること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄(該当する口欄をチェック■)</p>	

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校が設定した研究活動の目的等に照らして、成果が得られているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 得られている <input type="checkbox"/> 得られていない	◇目的等ごとに、活動の成果がわかる資料 ※ 目的1： 本科卒業研究、専攻科特別研究において、地域課題解決方研究を推奨・推進している（資料 A-1-③-(1)-1(p15)）。また、本科1年より自主探究授業として自主研究を行っており、そこでも地域課題に関するテーマを推奨している（資料 A-1-③-(1)-2(p16)）。 ・資料 A-1-③-(1)-1(p15) 研究活動の成果がわかる資料-1 ・資料 A-1-③-(1)-2(p16) 研究活動の成果がわかる資料-2  ※ 目的2： 最先端研究の成果として研究成果一覧（資料 A-1-③-(1)-3(p17)）、特別研究テーマ一覧（資料 A-1-③-(1)-4(p18)）、卒業研究テーマ一覧（資料 A-1-③-(1)-5(p19)）、知的財産管理状況（資料 A-1-③-(1)-6(p20)）を示す。 ・資料 A-1-③-(1)-3(p17) 研究活動の成果がわかる資料-3 ・資料 A-1-③-(1)-4(p18) 研究活動の成果がわかる資料-4 ・資料 A-1-③-(1)-5(p19) 研究活動の成果がわかる資料-5 ・資料 A-1-③-(1)-6(p20) 研究活動の成果がわかる資料-6
観点A-1-④ 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。	
【留意点】 ○ 組織の役割、人的規模・バランス、組織間の連携・意思決定プロセス・責任の明確化等がわかる資料を提示すること。 ○ 具体的な改善事例については、活動状況とともに効果や成果について示すこと。 ○ 研究活動等の実施状況や問題点を把握しているものの、現状では改善を要する状況にない場合には、問題が生じた際に対応できる体制の整備状況について資料を提示すること。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 観点A-1-③で把握した成果を基に問題点等を把握し、それを改善に結び付けるための体制を整備しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない	◇改善の体制がわかる資料 ・資料 A-1-④-(1)-1(p23) 研究活動に対する改善の体制がわかる資料  ◆学校が設定した研究活動の目的等の項目に対応させた具体的な改善事例があれば、具体的な内容について、資料を基に記述する。 ※ 目的1 地域課題解決に向けたテーマを推奨・推進した結果、地域志向を明示したテーマの卒業研究・特別研究の割合が増加した（資料 A-1-④-(1)-2(p24)）。また、地域課題の掘り起こしを目指した取組みとして、ポスターを作成し地



	<p>域企業等に配布した（資料 A-1-④-(1)-3(p25)）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料 A-1-④-(1)-2(p24) 具体的な改善事例がわかる資料-1</li> <li>・資料 A-1-④-(1)-3(p25) 具体的な改善事例がわかる資料-2</li> </ul> <p>※ 目的2 校長による科研費申請演習の実施（資料 A-1-④-(1)-4(p26)）により、科研費の申請件数がH25 年度からH30 年度にかけて 37 件から 46 件に増加した（資料 A-1-④-(1)-5(p27)）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料 A-1-④-(1)-4(p26)具体的な改善事例がわかる資料-3</li> <li>・資料 A-1-④-(1)-5(p27)具体的な改善事例がわかる資料-4</li> </ul>
<p><b>A-1 特記事項</b> この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	

<p><b>選択的評価事項A 目的の達成状況の判断</b></p>
<p><input type="checkbox"/> 目的の達成状況が非常に優れている</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目的の達成状況が良好である</p> <p><input type="checkbox"/> 目的の達成状況がおおむね良好である</p> <p><input type="checkbox"/> 目的の達成状況が不十分である</p>

<p><b>選択的評価事項A</b></p>
<p><b>優れた点</b></p>
<p>1年次より5年次まで本科全学年において自主探究活動を導入し、学生主体の研究活動を通して、研究に対する姿勢を学ばせるという新しい試みを行っている。この活動を通して、学生のテーマ探索・計画・遂行に関する能力向上を図っている。</p>
<p><b>改善を要する点</b></p>

**選択的評価事項B 地域貢献活動等の状況**

<b>評価の視点</b>	
B-1 高等専門学校の地域貢献活動等に関する目的等に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、活動の成果が認められていること。	
観点B-1-① 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。	
関係法令	(法)第107条 (設)第21条
【留意点】	
○ なし。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等を適切に定めているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 定めている <input type="checkbox"/> 定めていない	◇定めていることがわかる資料 ・資料 B-1-①-(1)-1(p28) 地域貢献活動の目的・方針・目標がわかる資料
観点B-1-② 地域貢献活動等の目的等に照らして、活動が計画的に実施されているか。	
【留意点】	
○ 実施体制について分析することは必須ではない。	
関係法令	(法)第107条 (設)第21条
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校が設定した地域貢献活動等について、具体的な方針を策定しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 策定している <input type="checkbox"/> 策定していない	◇具体的な方針が策定されていることがわかる資料 ・[再掲]資料 B-1-①-(1)-1(p28) 地域貢献活動の方針が策定されていることがわかる資料
(2) (1)の方針に基づき計画的に実施しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 実施している <input type="checkbox"/> 実施していない	◇実施状況がわかる資料 ※ 目的1 本校では、地域の公的委員・役員の受命を積極的に進めている（資料 B-1-②-(2)-1(p29)。地域への教育サービスとしては、中学教員向け科学講座（クリスマスレクチャー：資料 B-1-②-(2)-2(p30)）や、小中学生・中学校教員向けの公開講座（資料 B-1-②-(2)-3(p32)）を行っている。更に地域連携事業（資料 B-1-②-(2)-4(p33)）を推進するとともに、八戸工業高等専門学校産業技術振興会において、県内企業限定の企業内容説明会や、イノベーション・ベンチャーアイデアコンテストなどの地域向け事業を実施している（資料 B-1-②-(2)-5(p34)）。 ・資料 B-1-②-(2)-1(p29) 地域貢献活動の実施状況がわかる資料-1 ・資料 B-1-②-(2)-2(p30) 地域貢献活動の実施状況がわかる資料-2 ・資料 B-1-②-(2)-3(p32)

	<p>地域貢献活動の実施状況がわかる資料-3                  ・資料 B-1-②-(2)-4(p33)</p> <p>地域貢献活動の実施状況がわかる資料-4                  URL: <a href="http://www.hachinohe-ct.ac.jp/schoolguide/upload/docs/college-bulletin2017.pdf">http://www.hachinohe-ct.ac.jp/schoolguide/upload/docs/college-bulletin2017.pdf</a>                  八戸工業高等専門学校学校要覧-p.46 (地域との連携)</p> <p>・資料 B-1-②-(2)-5(p34)</p> <p>地域貢献活動の実施状況がわかる資料-5</p> <p>※ 目的2 新規産業の創出に向け、地(知)の拠点整備事業/地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(資料 B-1-②-(2)-6(p35))を行っている。更に地域企業・学校による研究・開発における利用のため、本校所有の試験・分析機器を公開し、利用に供している(資料 B-1-②-(2)-7(p36))。</p> <p>・資料 B-1-②-(2)-6(p35)</p> <p>地域貢献活動の実施状況がわかる資料-6</p> <p>・資料 B-1-②-(2)-7(p36)</p> <p>地域貢献活動の実施状況がわかる資料-7</p>
<p>観点B-1-③ 地域貢献活動等の実績や活動参加者等の満足度等から判断して、目的に沿った活動の成果が認められるか。</p>	
<p><b>【留意点】</b>                  ○ 目的が複数ある場合は、それぞれの目的ごとに、活動の成果がわかる資料を提示すること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄(該当する□欄をチェック■)</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する                  □満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄(該当する□欄をチェック■)</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学校が設定した地域貢献活動等の目的等に照らして、成果が認められるか。</p> <p>■認められる                  □認められない</p>	<p>◇活動の成果がわかる資料(活動別参加者数、参加者・利用者アンケート等)</p> <p>※ 目的1 平成28年度には12件、29年度には10件の公開講座(再掲資料 B-1-②-(2)-3(p32)) 12件の出前授業(資料 B-1-③-(1)-1(p37))を行った。</p> <p>・[再掲] 資料 B-1-②-(2)-3(p32)</p> <p>地域貢献活動の実施状況がわかる資料-3</p> <p>・資料 B-1-③-(1)-1(p37)</p> <p>地域貢献活動の成果がわかる資料-1</p> <p>※ 目的2 独自の自主探究学習において、33件の地域志向テーマが提案・遂行された(資料 B-1-③-(1)-2(p38))。また;卒業研究においては、50件の地域課題をテーマとして研究が進められた(資料 B-1-③-(1)-3(p39))。</p> <p>・資料 B-1-③-(1)-2(p38)</p> <p>地域貢献活動の成果がわかる資料-2</p> <p>・資料 B-1-③-(1)-3(p39)</p>

	地域貢献活動の成果がわかる資料-3
<p>観点B-1-④ 地域貢献活動等に関する問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。</p>	
<p><b>【留意点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 具体的な改善事例については、活動状況とともに効果や成果について示すこと。</li> <li>○ 地域貢献活動等に関する問題点を把握しているものの、現状では改善を要する状況にない場合には、問題が生じた際に対応できる体制の整備状況について資料を提示すること。</li> </ul>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する □満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 観点B-1-③で把握した結果を基に問題点等を把握し、それを改善に結び付けるための体制を整備しているか。</p> <p>■整備している □整備していない</p>	<p>◇改善の体制がわかる資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料 B-1-④-(1)-1(p41) 地域貢献活動に関する改善の体制がわかる資料</li> </ul> <p>◆学校が設定した地域貢献活動等の目的等の項目に対応させた具体的な改善事例があれば、具体的な内容について、資料を基に記述する。</p> <p>※ 目的1 地域の教育機関などからの依頼、要望を元に、公開講座、出前講座を実施しており、その件数、定員充足率が増加している（資料 B-1-④-(1)-2(p42)）。また、中学教員向け科学講座（クリスマスレクチャー）も行っており、そのアンケート結果より、参加者の満足度が極めて高いことがわかった（資料 B-1-④-(1)-3(p43)）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料 B-1-④-(1)-2(p42) 地域貢献活動における具体的な改善事例がわかる資料-1</li> <li>・ 資料 B-1-④-(1)-3(p43) 地域貢献活動における具体的な改善事例がわかる資料-2</li> </ul> <p>※ 目的2 八戸工業高等専門学校「地（知）の拠点整備事業」（COC事業）において、ブロックコーディネータによる教員のシーズ聞き取り調査を行い、その結果を元に地域企業と教員の共同研究・相談およびセミナー講師の受託を行った（資料 B-1-④-(1)-4(p44)）。また、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）において、地域の課題掘り起しを行うことで、「医療分野」市民病院、平和病院からのテーマを自主探究学習において解決した（資料 B-1-④-(1)-5(p45)）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料 B-1-④-(1)-4(p44) 地域貢献活動における具体的な改善事例がわかる資料-3</li> <li>・ 資料 B-1-④-(1)-5(p45) 地域貢献活動における具体的な改善事例がわかる資料-4</li> </ul>
<p><b>B-1 特記事項</b> この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性</p>	

<b>や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</b>
<p>※ 地域企業 29 社を含む 145 の企業による企業内容説明会を開催することで、学生にあまりなじみのない地域企業を紹介するとともに、地域企業への就職を支援している（資料 B-1-特記事項-1(p46)）。また、八戸市との共催、八戸市教育委員会との連携にてまちなか文化祭を H26 年度より開催している（資料 B-1-特記事項-2(p47)）。ここでは、公開講座、出前授業、高専の研究、課外活動などの紹介をすると共に、子供やその保護者に科学・工学の面白さを体験できるような展示・デモを行い、参加者より好評を得ている（資料 B-1-特記事項-3(p49)）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料 B-1-特記事項-1 観点のみでは評価できない取組みがわかる資料-1(p46)</li> <li>・資料 B-1-特記事項-2 観点のみでは評価できない取組みがわかる資料-2(p47)</li> <li>・資料 B-1-特記事項-3 観点のみでは評価できない取組みがわかる資料-3(p49)</li> </ul>

<b>選択的評価事項 B 目的の達成状況の判断</b>
<p><input type="checkbox"/> 目的の達成状況が非常に優れている</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目的の達成状況が良好である</p> <p><input type="checkbox"/> 目的の達成状況がおおむね良好である</p> <p><input type="checkbox"/> 目的の達成状況が不十分である</p>

<b>選択的評価事項 B</b>
<b>優れた点</b>
<p>※自主探究活動、卒業研究、特別研究において地域志向テーマの導入を積極的に進めることで、学生に地域課題を認識させその解決への取組みを通して、地域貢献の重要性を学ばせている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・COC/COC+を始めとしたさまざまな活動を通し、公開講座、出前授業、企業見学会等多彩な地域貢献活動を行っている。</li> <li>・地域企業 29 社を含む企業による企業内容説明会を開催することで、学生に地域企業を紹介するとともに、地域企業への就職を支援している。</li> </ul>
<b>改善を要する点</b>